



令和6年度教育課程研究集会 中学校 国語

奈良県教育委員会事務局
義務教育課
指導主事 澤 裕史

本日の内容

- 1 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善
- 2 実践発表
桜井市立桜井西中学校 巽 正喜先生

国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

知識及び技能

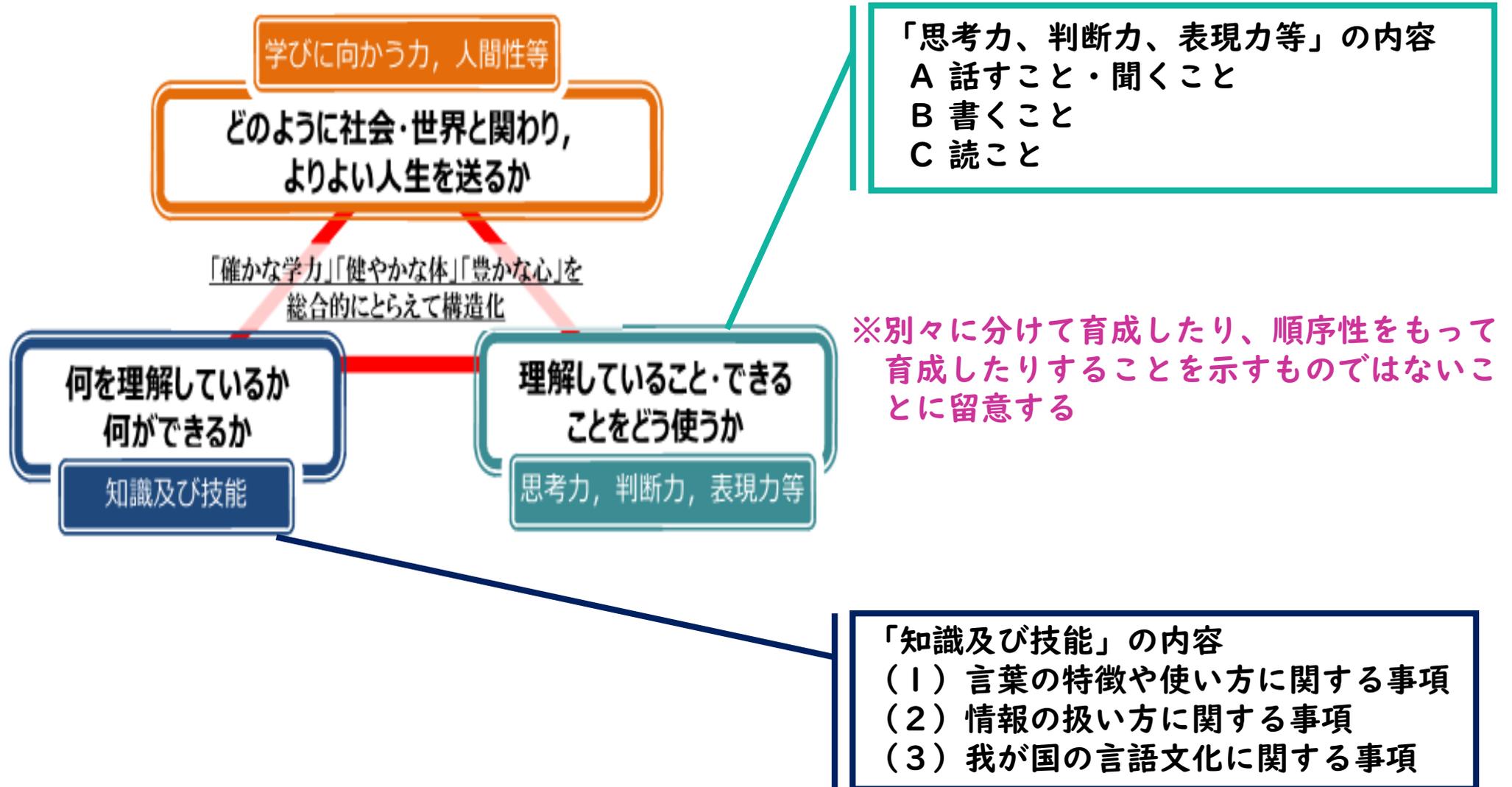
(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

思考力、判断力、表現力等

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

学びに向かう力、人間性等

中学校国語科で育成を目指す資質・能力



主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた
授業改善を進める際の留意点

ア 児童生徒に求められる資質・能力を育成することを目指した授業改善の取組は、既に小・中学校を中心に多くの実践が積み重ねられており、特に義務教育段階はこれまで地道に取り組まれ蓄積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はないこと。

イ 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、児童生徒に目指す資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業改善を進めるものであること。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める際の留意点
(以下, 一部省略して記載)

- ウ 通常行われている学習活動の質を向上させることを主眼とするもの
- エ 単元や題材など内容や時間のまとまりの中で実現を図っていくもの
- オ 深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること
- カ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には, その確実な習得を図ることを重視すること

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- 言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。
- 国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するか、という言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。
- これまでも国語科の授業実践の中で取り組まれてきたように、生徒が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるよう、学習指導の創意工夫を図ることが期待される。

主体的・対話的で深い学び

■主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

主体的・対話的で深い学び

■対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

主体的・対話的で深い学び

■深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

主体的・対話的で深い学びへの視点

- 学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか
- 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか
- 学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか

主体的・対話的で深い学びへの視点

- 学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか
- 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか
- 学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか